

利益成長を実現していくテクノロジー企業に引き続き注目

米国ネクストビジョンファンド

(為替ヘッジあり)/(為替ヘッジなし)

追加型投信/海外/株式

- ▶ 本レポートでは、上半期の米国株式市場の振り返りと今後の見通し、投資先ファンド「JPモルガン・ファンズーUSテクノロジー・ファンド」におけるこれまでの運用経過と今後の運用方針について紹介いたします。
- ▶ 米国株式市場は、米連邦準備制度理事会(FRB)の金融政策やマクロ経済見通しの変化に対する懸念から、年初来で軟調な値動きが続きました。足元では、過度に悲観的な見方が広がっていると考えられます。
- ▶ **テクノロジーセクターにおいて、クラウド、自動化、電子決済、AI、マシンラーニングなど、長期的な需要拡大と成長が期待される銘柄が多く存在するとの見方は変わっておりません。**

2022年上半期の米国株式市場の振り返りと今後の見通し

米国株式市場は、2022年に入ってからFRBによる金融政策やマクロ経済見通しの変化を受けて、変動性の高い環境が続いており、特にテクノロジーセクターは厳しいパフォーマンスとなっています。例えば、ナスダック100指数*は、2021年11月の高値水準から足元にかけて約33%下落していますが、これが新型コロナウイルスのパンデミックが発生した2020年1-3月期を上回る株価下落になっていることを踏まえると、**株式市場では現在過度に悲観的な見方が広がっている状況と考えられます(図表1)。**

年初来のテクノロジーセクターの株価下落により、株価バリュエーションにも調整が見られています。ナスダック100指数について言えば、パンデミックが発生する前の2019年12月末時点で予想PER(株価収益率)は約24.4倍でしたが、2022年6月末時点では約20.7倍と、過去20年平均(約21.5倍)を下回る水準にまで低下しています(図表2)。

過去数十年を振り返ると、テクノロジーセクターへの投資において下落局面は定期的に経験するものであり、そのような下落の後には、概ね良好なリターンの期間が現れる傾向にあります。**テクノロジーセクターの収益が長期的に成長していくとの見通しに変化はございません。今後景気が減速するにつれて、企業業績が全般的に鈍化するとの懸念が高まる中、利益成長を実現していくテクノロジー企業に再び投資家の目が向かう可能性がある**と考えています。

図表1. ナスダック100指数の推移

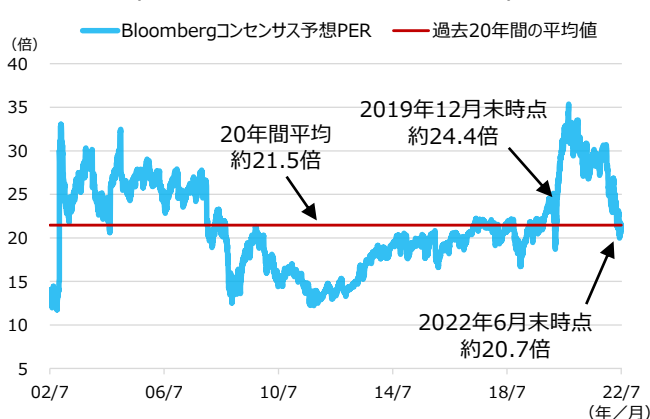
(2019年1月2日～2022年7月7日、日次)



(出所) 上記グラフはいずれもBloombergのデータを基に岡三アセットマネジメント作成

図表2. ナスダック100指数の予想PERの推移(20年間)

(2002年7月8日～2022年7月7日、日次)



* ナスダック100指数：金融以外のセクターで時価総額と流動性が最も高い100銘柄程度で構成される指数

※本資料の株式市場見通しは、2022年7月1日時点におけるJ.P.モルガン・アセット・マネジメントの見解を示したものであり、将来の投資成果および市場環境の変動等を示唆・保証するものではありません。

本資料では「米国ネクストビジョンファンド(為替ヘッジあり)」「米国ネクストビジョンファンド(為替ヘッジなし)」を総称して「当ファンド」といいます。投資先ファンドはルクセンブルグ籍外国投資法人「JPモルガン・ファンズーUSテクノロジー・ファンド」(外国籍、日本での取扱いはありません。)であり、当ファンドはそのシェアクラスである「JPモルガン・ファンズーUSテクノロジー・ファンド(1クラス)(円建て、円ヘッジ)」[JPモルガン・ファンズーUSテクノロジー・ファンド(1クラス)(円建て)]に投資します。

<本資料に関してご留意いただきたい事項>

■本資料は情報提供を目的として岡三アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、ファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。■本資料に掲載されている市況見通し等は、本資料作成時点での当社の見解であり、将来予告なしに変更される場合があります。また、将来の運用成果を保証するものでもありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託の取得の申込みに当たっては、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客各自で行っていただきますようお願いいたします。

投資先ファンドの運用経過と今後の運用方針

基準価額にプラスに寄与した銘柄の例

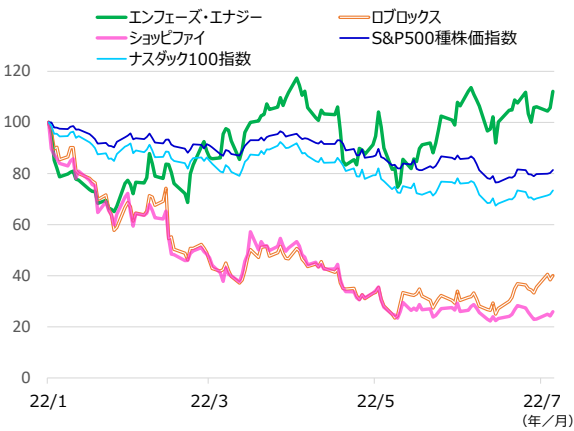
エンフェーズ・エナジー：
同社は家庭用ソーラー発電のマイクロインバーターや蓄電池などのソリューションを手掛けています。2021年10-12月期決算において、太陽光発電と蓄電池に対する力強い需要が確認されたことや、サプライチェーン問題への対処が進んでいることに加え、欧州市場への参入の進展が株式市場において評価されました。

基準価額にマイナスに影響した銘柄の例

ロブックス：
同社はオンラインゲームプラットフォームを展開しています。2021年10-12月期決算において、ユーザー数や売上高などの伸び率が市場予想を下回ったことを受けて、同社の株価は下落しました。投資先ファンドでは、これを受けて同社への投資比率を低下させたものの、同社の長期的な成長に対する確信度が高いことから、低めの比率ながらも保有を継続しています。

ショッピファイ：
eコマース市場の成長鈍化や、在庫の保管や商品の梱包・配送を一括して代行するシステムであるShopify フルフィルメントネットワーク(SFN)構築に向けた投資負担などの懸念材料が重なり、同社の株価は下落しました。運用チームでは、SFNの成功については不透明感が残るものの、同社は正しい方向に向けた事業戦略をとっていると捉えています。

図表3. 左記3社株価と主要株価指数の推移
(2022年1月3日～2022年7月7日、日次、
2022年1月3日を100として指数化)



(出所)Bloombergのデータを基に岡三アセットマネジメント作成

ポートフォリオの調整について

年初から足元にかけての運用経過

市場の変動性が高い環境への対応として、強固な収益基盤を持ち、キャッシュフローが健全で、株価バリュエーションが相対的に低い「成長性とクオリティを重視した銘柄」をポートフォリオに組み入れています。例えば、オラクル、マイクロソフト、グイェムウェアなどです。これらの企業は収益性が高く、キャッシュフローが潤沢でありながら、その成長性はまだ十分に株価に織り込まれていないと考えています。一方で、利益とキャッシュフローの黒字化の道筋に不透明感の残る企業は、現在の環境では継続保有は難しいと判断し、グローバル・イー・オンライン、レモネード(ピアツーピア損害保険会社)、ユニティ・ソフトウェアなどの売却を行いました。

今後の運用方針

テクノロジーセクターにおいて、クラウド、自動化、電子決済、AI、マシンラーニングなど、長期的な需要拡大と成長が期待される銘柄が多く存在するとの見方は変わっておりません。運用チームでは引き続き、市場が過小評価しているとみられる魅力的な企業を発掘していくことに努めてまいります。

ポートフォリオ・マネジャー
ジョー・ウィルソン



※上記は、個別銘柄の推奨を目的として示したのではなく、当該銘柄の株価の上昇および投資先ファンドへの組入れを保証するものではありません。
※本資料の株式市場見通しは、2022年7月1日時点におけるJ.P.モルガン・アセット・マネジメントの見解を示したものであり、将来の投資成果および市場環境の変動等を示唆・保証するものではありません。

＜本資料に関してご留意いただきたい事項＞

■本資料は情報提供を目的として岡三アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、ファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。■本資料に掲載されている市況見通し等は、本資料作成時点での当社の見解であり、将来予告なしに変更される場合があります。また、将来の運用成果を保証するものでもありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託の取得の申込みに当たっては、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。

ファンドの基準価額 (基準日 2022年7月8日)

当ファンドの7月8日の基準価額は、為替ヘッジありが6,180円、為替ヘッジなしが7,457円となっています。

※7月8日の基準価額には、米国現地7日までの動きが反映されています。なお、投資先ファンドは取引時間中の価格で評価を行っているため、引値ベースの動きとは異なる点にご留意ください。

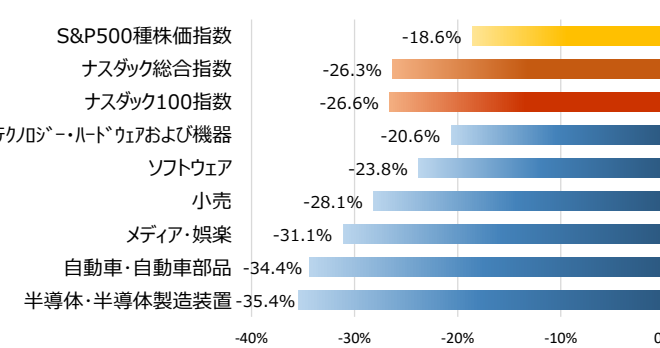
足元の投資環境

図表4. S&P500種株価指数とドル／円の推移
(2021年10月25日～2022年7月7日、当ファンド設定来、日次)



(出所)上記グラフはいずれもBloombergのデータを基に岡三アセットマネジメント作成

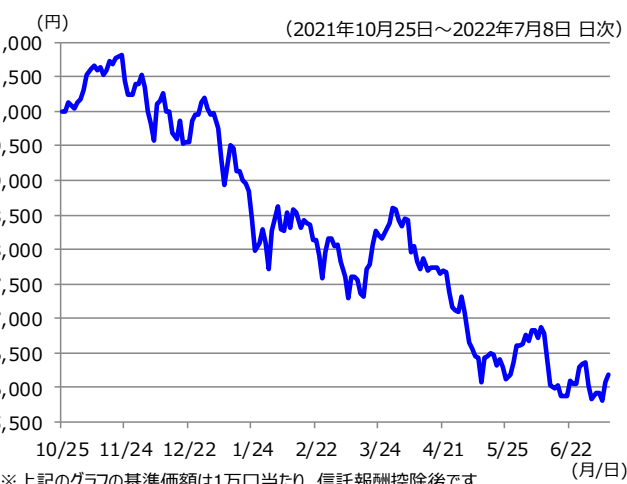
図表5. 年初来の主要株価指数と主要セクターの騰落率
(2021年12月29日終値～2022年7月7日終値)



※セクターは、S&P500ベース、GICS基準(世界産業分類基準)で表示

為替ヘッジあり

基準価額の推移



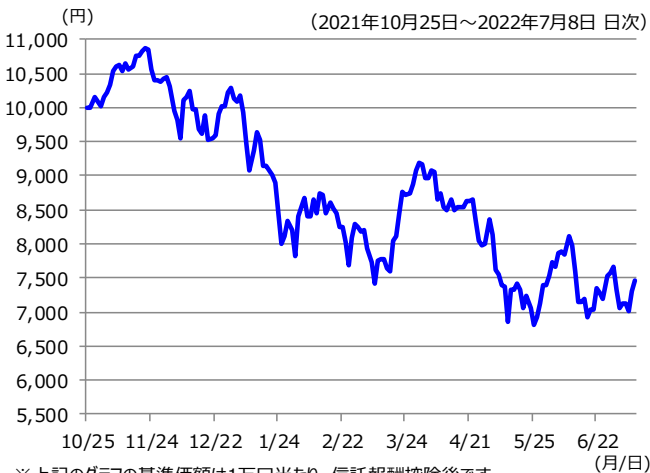
※上記のグラフの基準価額は1万口当たり、信託報酬控除後です。
※グラフは過去の実績であり、将来の成果を示唆または保証するものではありません。

ファンドデータ	
基準価額 (円)	6,180
残存元本 (百万口)	6,568
純資産総額 (百万円)	4,058
ポートフォリオ構成比率	
JPモルガン・ファンズーUSテクノロジーファンド (1クラス) (円建て、円ヘッジ) (%)	97.9
マネー・リクイディティ・マザーファンド (%)	0.2
短期金融商品その他 (%)	1.9

※小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100にならない場合があります。

為替ヘッジなし

基準価額の推移



※上記のグラフの基準価額は1万口当たり、信託報酬控除後です。
※グラフは過去の実績であり、将来の成果を示唆または保証するものではありません。

ファンドデータ	
基準価額 (円)	7,457
残存元本 (百万口)	110,424
純資産総額 (百万円)	82,345
ポートフォリオ構成比率	
JPモルガン・ファンズーUSテクノロジーファンド (1クラス) (円建て) (%)	98.0
マネー・リクイディティ・マザーファンド (%)	0.2
短期金融商品その他 (%)	1.8

※小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100にならない場合があります。

J.P.モルガン・アセット・マネジメントは、JPモルガン・チェース・アンド・カンパニーおよび世界の関連会社の資産運用ビジネスのブランドです。

(作成：運用本部)

＜本資料に関してご留意いただきたい事項＞

■本資料は情報提供を目的として岡三アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、ファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。■本資料に掲載されている市況見通し等は、本資料作成時点での当社の見解であり、将来予告なしに変更される場合があります。また、将来の運用成果を保証するものではありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託の取得の申込みに当たっては、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。

米国ネクストビジョンファンドに関する留意事項



【岡三アセットマネジメントについて】

商号：岡三アセットマネジメント株式会社
岡三アセットマネジメント株式会社は、金融商品取引業者として投資運用業、投資助言・代理業および第二種金融商品取引業を営んでいます。登録番号は、関東財務局長（金商）第370号で、一般社団法人投資信託協会および一般社団法人日本投資顧問業協会に加入しています。

【投資リスク】

- 投資者の皆様は投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。投資信託は預貯金と異なります。投資信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者の皆様へ帰属します。ファンドは、米国の株式等値動きのある有価証券等に投資しますので、組入れた有価証券等の価格の下落等の影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資しますので、為替相場の変動により損失を被ることがあります。
 - ファンドの主な基準価額の変動要因としては、各ファンド共通のリスクとして「株価変動リスク」、「信用リスク」、「カントリーリスク」、各ファンド個別のリスクとして「為替変動リスク」があります。
- ※ 基準価額の変動要因は上記のリスクに限定されるものではありません。

【その他の留意点】

- ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリングオフ）の適用はありません。
 - 投資信託は預金商品、保険商品ではなく、預金保険、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関が取扱う投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。投資信託の設定・運用は投資信託委託会社が行います。
 - ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要がある場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金申込の受付が中止となる可能性、換金代金の支払が遅延する可能性があります。
 - 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合があるため、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。また、投資者の購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりがあった場合も同様です。
 - 投資対象とする投資信託証券にかかる購入・換金申込みの受付の中止および取消、取引所における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金申込みの受付を中止することや、すでに受けた購入・換金申込みの受付を取消することがあります。
- 詳しくは、「投資信託説明書（交付目論見書）」の「投資リスク」をご参照ください。

【お客様にご負担いただく費用】

<お客様が直接的に負担する費用>

- 購入時
購入時手数料：購入金額（購入価額×購入口数）×上限3.3%（税抜3.0%）
詳しくは販売会社にご確認ください。
- 換金時
換金手数料：ありません。
信託財産留保額：ありません。

<お客様が信託財産で間接的に負担する費用>

- 保有期間中
運用管理費用（信託報酬）
：純資産総額×年率1.298%（税抜1.18%）
運用管理費用（信託報酬）の実質的な負担
：純資産総額×年率1.948%程度
実質的な負担とは、ファンドが投資対象とする投資信託証券の信託報酬を含めた報酬です。なお、実質的な運用管理費用（信託報酬）は目安であり、投資信託証券の実際の組入比率により変動します。
- その他費用・手数料
監査費用：純資産総額×年率0.0132%（税抜0.012%）
- 有価証券等の売買に係る売買委託手数料、投資信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、海外における資産の保管等に要する費用、受託会社の立替えた立替金の利息、借入金の利息等を投資信託財産でご負担いただきます。また、投資対象とする投資信託証券に係る前記の費用等を間接的にご負担いただきます。

- お客様にご負担いただく費用につきましては、運用状況等により変動する費用があることから、事前に合計金額もしくはその上限額またはこれらの計算方法を示すことはできません。
- 詳しくは、「投資信託説明書（交付目論見書）」の「手続・手数料等」をご参照ください。

受益権の募集の取扱い、投資信託説明書(交付目論見書)、投資信託説明書(請求目論見書)及び運用報告書の交付の取扱い、解約請求の受付、買取請求の受付・実行、収益分配金、償還金及び解約金の支払事務等を行います。なお、販売会社には取次証券会社が含まれる場合があります。

(2022年7月12日現在)

商号	登録番号	加入協会			
		日本証券業協会	一般社団法人 日本投資 顧問業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種金融商品 取引業協会
(金融商品取引業者)					
岡三証券株式会社	関東財務局長(金商)第53号	○	○	○	○
岡三にいがた証券株式会社	関東財務局長(金商)第169号	○			
阿波証券株式会社	四国財務局長(金商)第1号	○			
三縁証券株式会社	東海財務局長(金商)第22号	○			
株式会社証券ジャパン	関東財務局長(金商)第170号	○			
愛媛証券株式会社	四国財務局長(金商)第2号	○			
三晃証券株式会社	関東財務局長(金商)第72号	○			
野畑証券株式会社	東海財務局長(金商)第18号	○			○
武甲証券株式会社	関東財務局長(金商)第154号	○			

※岡三証券株式会社は、一般社団法人日本暗号資産取引業協会にも加入しております。

<本資料に関するお問い合わせ先>

フリーダイヤル 0120-048-214 (9:00～17:00 土・日・祝祭日・当社休業日を除く)